

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

志方西小学校

4月に全国学力・学習状況調査が行われ、6年生を対象に「国語」・「算数」・「理科」の3教科及び「児童アンケート」を実施しました。県や全国との比較もしながら、考察した本校児童の学力・学習状況の傾向と、その対応についてお知らせします。本調査の結果は、学力の特定の一部分をあらわすものではありませんが、よい点はさらに伸ばし、課題となる点は改善していきます。

1. 教科調査結果概要と今後に向けて

正答数を平均すると県や全国に比べ、「理科」は同程度であり、「国語」・「算数」では領域によっては上回っているものがあるものの、全体としては平均を少しだけ下回っています。

【国語】「読むこと」で、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする問題での正答率は高く、よい結果が表れていました。一方で、文意に沿って「漢字」を正しく書くこと、「話し合いの文章」で、相手とのつながりをつくる言葉の働きを捉えることには課題がありました。今後も、漢字をはじめ、知識・技能の定着を図るとともに、根拠を明確にして自分の考えを表現する思考力、判断力、表現力等の育成に向けた取り組みを進めていきます。

- ・「読むこと」では、これからも低・中学年時からしっかり本読みをして、あらすじや文章構成がつかめる力をつけていきます。
- ・「漢字」については、視写力だけでなく生活文・感想文など日常の「書く」場面で活用力をつけていけるようにしていきます。
- ・「対話力（話し合い）」では、コロナ禍であることで話し合いが持ちにくい状況ですが、話型を示したり、協同的探究学習を通して友達の考えとつなげながら話す力を育てたりしていきます。

【算数】「割り算」の意味理解を問う思考力問題では、9割以上が正答の記述（理由とともに）ができていました。一方で示された場面において、目的に合った数処理の仕方を考察する問題や「百分率」を含め「割合」の意味を捉えて思考する問題に課題がありました。今後も、計算の意味に着目し、計算の仕方を見直し、それが適切かどうかを振り返る場面を設けたり、分数や少数、百分率など様々な表現方法を関連付け、それらを活用したりする学習の充実を図っていきます。

- ・日常生活場面の設定で、数学的に思考していく問題がほとんどであり、「わかってできる」力の育成が大切となります。例えば、「割合」問題について、日常生活と結びつけて考えられることを意図的に増やしていきます。またグラフ、表などに整理（アンケート集計等）していくのにも読み取るのに時間がかかっていますので、日常場面でしっかり経験できるようにしていきます。
- ・文章題を解く場合、図・表など視覚的に補助となるものを自分で書くことが出来るように取り組んでいきます。（タブレット活用も含め）

【理科】予想が確かめられた場合に得られる結果を通して、問題を解決するまでの道筋を構想して自分の考えをもつという問題（気温の変化：グラフを選ぶ）での正答率が高く、よく思考できている結果が表れていました。一方で、「日光は直進すること」を理解しているかどうかを見る問題、観察・実験においてまとめの検討や分析をとおして自分の考えを記述する問題では課題がありました。今後も日常生活との関連を図りながら、修得した知識を次の学習や生活などに生かしたり、科学的な言葉や概念を理解したり説明したりする学習の充実を図っていきます。

- ・理科の用語を使って、実験や観察したことをノートにまとめる力をつけていくことを大切にしていきます。
- ・多様に考え、新たな興味を持つことができる力の育成を図るため、協同的探究学習を通して課題解決型の授業を推進していきます。また、単元のはじめに児童がどんなことを知りたいかという学習のめあてを児童とともに設定していく活動を入れていきます。

2. 本校の「児童質問紙」の回答結果の概要

☆: 肯定的回答の割合が高い、

★: 割合が低い

- ☆毎日、朝食を食べている。同じくらいの時刻に寝ている・起きている。
- ☆自分によいところがある。
- ☆先生はあなたのよいところを認めてくれている。
- ☆自分と違う意見について考えるのは楽しい。
- ☆地域行事に参加している。
- ☆PC 端末使用の割合。勉強の役に立っている。
- ☆学級会での話し合いについて（解決に向けて・自分の努力につながっている）

生活リズムが安定している児童が多い。
先生との信頼関係が構築できている。
地域とのつながりがもてている。

自己肯定感が高い児童が多い。
学校でのPC 活用が充実できている。
学級集団づくりが進んでいる。

★学校以外での学習時間

平日・休日の学習時間がやや短い

- ・家庭がしっかりされていて、落ち着いて生活できている子が多くいます。宿題忘れも少なく、給食も時間内にもりもり食べることができています。低学年からの基本的な生活習慣が身についている児童が多く、家庭の教育力の大きさが伺えます。また祖父母とのかかわりも大きく影響していて、地域の行事へも世代を超えて参加できているのもプラスに働いています。
- ・基本的な生活習慣が定着していますので、これからも継続できるよう家庭と連携しながら取り組んでいきます。
- ・自尊感情をさらに高められるように、多様な体験ができること、また人権教育・道徳教育をさらに推進していきます。

3. 学力のさらなる向上のために

- 「できる学力」の向上にむけ、計算・漢字をはじめ、基礎基本の徹底とさらなる学習習慣の定着をはかります。家庭学習の手引きを活用し、家庭と連携しながら進めていきます。また、「わかる学力」のさらなる育成に向け、協同的探究学習のなかで、思考する力、説明する力を大切にし、剥がれ落ちない学力の育成に努めていきます。
- 教科書の内容にとどまらず、日常生活のこんな場面で学習したことが生きているということなど、児童が興味をもちそうなことをとりあげていながら、学習と生活をつなげていきます。
- 地域とのつながりを持ち、地域の人々とふれあいながら成長できている児童が多くいます。行事や体験活動を通して、目標を持って取り組む経験を重ね、達成感を味わわせることによって挑戦する意欲や自信を育てていきます。